

# こんにちは ふくま健治です

活動報告ニュース  
2018年3月2号

私は、3月16日（金）に一般質問を行いました。質問要旨を紹介します。

## 生活保護基準の引き下げ撤回を



福間議員—2013年度から3年連続で最高10%（平均6.5%）に切り下げられた生活扶助費を今回最大5%とさらなる削減を打ち出したことは重大。

（壇上で質問する福間） 「格差と貧困」の是正を求める国民の声に背を向け、多くの利用者の生活を直撃し、「最低限度の生活」も送れなくなると怒りの声があがっている。今回も政府の生活扶助削減方針は、まったく道理がない、生活扶助削減の方針を撤回し、2013年の削減前の水準に戻すことを強く要求すること。

福祉保健部長—「基準は厚生労働大臣が決めること。撤回を要求することは考えていない」



福間議員は、●2013年からの3年連続引き下げと今回の削減計画による2級地1の大分市の被保護世帯の①(単身世帯・70歳)②(3人世帯・母38歳・子13歳・子9歳)の影響について明らかにさせ、●生活実態調査を実施すること。●扶助費の引き下げにより、生活保護世帯の生活に支障のないよう市独自の支援措置をおこなうこと。●生活保護基準の引き下げは、他の福祉施策や各種減免制度への影響が懸念される。影響が及ばない対応などについても、執行部の姿勢を正しました。

（再質問する福間）

## JR 駅無人化・減便撤回を要求せよ

福間議員—日本共産党も昨年9月にはJR九州大分支社へ、2月26日には、国会議員と九州8県の党代表で、駅無人化・減便方針撤回などを申し入れしてきました。

JR九州は、駅無人化の「SSSの導入は段階的に実施する」減便は、「若干の修正をして、すでにダイヤ改正を強行している」市はSSSの導入は「丁寧な説明と慎重な対応を求める」、減便には「市民意見をJR九州本社に投げかけ、対応まっている」という姿勢にとどまっている。●駅無人化・減便は撤回を基本に強く要求すること。

都市計画部長—SSSの導入は「丁寧な説明と慎重な対応を求める」、減便は「JR九州に届けている市民意見が今後のダイヤに反映されるよう働きかける」と撤回という姿勢は示すことができませんでした。

福間議員—障害者基本法、障害者差別解消法など障害者への不利益を与え、あらたな社会的障壁をつくり、障害のある人のJR駅利用を著しく困難にするものと。撤回を強く要求しました。

●今回の駅無人化や減便などの根本原因は、国鉄・分割民営化にある。採算第一主義の民間事業者任せでは問題の解決はできない、国・県への支援も求めいくことも要求しました。

## 豊予海峡ルート事業から撤退を



福間議員—今回のJR九州のダイヤ改正で、主要路線である九州新幹線6便も減便された。本市は四国新幹線計画の一部である豊予海峡ルート構想を推進している。仮に新幹線が整備されても、今回のJR九州のように莫大な費用を投入して建設した新幹線を減便することは明らか。またJR四国は四国新幹線をとっている、輸送量が少ないので非現実的と専門家は指摘している。●豊予海峡ルート推進事業から撤退すること。

（再々質問する福間）

企画部長—「機運の醸成に努める」との答弁を繰り返すにとどまりました。

☆バス事業、エネルギー対策、国民健康保険の質問内容は、紙面の都合で、次回のニュースで報告します。

## 消費税10%増税中止させよう



（コンパル多目的ホール）

2・13重税反対大分集はコンパルホールで開れました。森友学園への国有地の格安払い下げをめぐる公文書書き換え問題での怒りの集会となりました。党議員団で参加者し、激励と共同して闘う決意を述べました。

## ———生活相談日誌———

●専門学校進学への貸付制度が利用できるようになったと2人の方から喜びの連絡がありました。

暮らしや地域の要求をお寄せください

## ふくま健治生活相談所

大分市東大道3-2-6  
546-4505（FAX兼用）  
携帯090-2714-5612

